

たましんレポート2017をよりわかりやすくお読みいただくため、用語の解説を記載しました。

あ行

1 アライアンス

取引上の連携の枠を超え、企業間でお互いに活用しあえる経営資源の相互活用関係を構築することで、相乗効果を目指すこと。

→ p. 29

2 インキュベーション施設

新たなビジネスを始めようとしている人や企業に対し、不足する資源(オフィス、ソフトなど)を提供し、その成長を促進するための施設のこと。
施設の入居には一定の審査が必要な場合がありますが、安価な家賃で使用できることや、金融相談・技術相談・経営相談等の各種支援施策を受けることができます。

→ p. 34

3 インフラ(インフラストラクチャー)

「下支えする」「構造」を指す観念的な用語で、社会の発展や経済の成長に寄与する基盤のこと。
狭義では交通、通信、電力、水道、公共施設など、社会や産業の基盤として整備される施設のこと。

→ p. 1、2、3、5、6、裏表紙

4 ALM (Asset Liability Management)

資産と負債を総合的に管理すること。
金融機関においては、全ての預金や貸出の金利・期間を把握し、将来の金利の変動を予測のうえ、リスクの最小化と収益の極大化を図るリスク管理の手法のこと。

→ p. 31

5 オペレーショナル・リスク

不適切な事務やシステムのトラブル等の要因により損失を被るリスクのこと。
オペレーショナル・リスクには事務リスク、システムリスク、その他のリスクが含まれます。

→ p. 26、31

か行

6 ガバナンス

全ての利害関係者(ステークホルダー)のために、企業価値を高めることを目的として、経営の意思決定やそのプロセスが適切かどうかのチェック機能を総称した仕組みのこと。

→ p. 2、5、29

7 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権のこと。

→ p. 27

8 コア資本

自己資本比率計算上の自己資本の額のこと。普通出資、優先出資、内部留保等の合計を指します。

→ p. 26

9 コミュニティ・ビジネス (CB)

地域の課題を地域住民が中心となって、ビジネスの手法を用いて解決する取り組みのこと。
組織形態はNPO法人が多いが、個人、会社組織や組合組織など多様であり、活動分野も「まちづくり、環境、介護福祉」などあらゆる分野に広がりを見せています。

→ p. 4、20

10 コンプライアンス

社会規範の遵守や法令遵守のほか、業界団体のルール、金庫内の規程等の諸ルールを厳正に遵守すること。

→ p. 2、29

さ行

11 債務者区分

債務者の財務状況、資金繰り、収益力等により返済能力を判定し、返済能力に応じて債務者を「正常先」、「要注意先(要管理先)」、「破綻懸念先」、「実質破綻先」、「破綻先」に区分すること。

→ p. 8

12 自己査定

信用リスクを管理するために、保有する資産を自ら個別に検討して回収リスクや損失発生リスクの度合いに従って区分すること。

→ p. 8

13 市場リスク

金利、有価証券価格、為替など市場で取引される商品の価格変動により、資産・負債の価値が変動し損失を被るリスク及び収益が変動し損失を被るリスクのこと。

→ p. 26、31

14 システムリスク

コンピュータシステムの障害による停止または誤作動により損失を被るリスクのこと。

→ p. 31

15 事務リスク

役職員が正確な事務処理を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより損失を被るリスクのこと。

→ p. 31

16 信用リスク

与信先や信用供与先(発行体等)の財務状況の悪化等により、資産(オフ・バランス資産を含む)の価値が減少あるいは消滅し、金融機関が損失を被るリスクのこと。

→ p. 26、31

17 信用リスク・アセット

信用リスクを有する資産を、リスクの大きさに応じて一定の掛け目を乗じて、再評価した資産金額のこと。

→ p. 26

18 正常債権

債務者の財政状態および経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権のこと。

→ p. 27

19 その他のオペレーショナル・リスク

評判の悪化や風説の流布などにより損失が発生する風評リスク、お客さまに対する義務違反や不適切な取引などから損害が発生する法務リスク、災害などにより有形資産に毀損・損害が発生する有形資産リスク、ハラスメントや就業環境の悪化等により損失が発生する人的リスクの4つを指します。

→ p. 31

た行

20 多摩ブルー・グリーン賞

多摩地域の中小企業の活性化と地域経済の振興に寄与することを目的に、優れた技術やビジネスモデルを表彰するたましんの取り組み。技術・製品を評価する「技術・製品部門(多摩ブルー賞)」と新しいビジネスモデルを評価する「経営部門(多摩グリーン賞)」の2部門から構成されています。

→ p. 11

21 地政学リスク

ある特定地域が抱える政治・軍事・社会的な緊張の高まりが、地球上の地理的な位置関係により、その特定(関連)地域の経済、あるいは世界経済全体の先行きを不透明にすること。

→ p. 2

22 地方創生

国内の各地域・地方がそれぞれの特徴を生かし、自律的で持続的な社会を形成すること。また、魅力あふれる地方のあり方を築くこと。

→ p. 19

23 TTMLレート

お客さまが金融機関で外貨を売買する際の基準となるレートのこと。
たましんでは米ドル・ユーロについては、毎営業日10時頃にこのレートを決定しています。

→ p. 24

24 統合的リスク管理

各リスクを種類ごとに評価し、それを総体的に捉えたものと自己資本を対比することにより、健全性、収益性、効率性を評価する、自己管理型のリスク管理のこと。
たましんでは、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、オペレーショナル・リスク(事務リスク、システム・リスク等)を統合的リスク管理の対象としています。

→ p. 26、29

25 特殊詐欺

電話などを利用して面識のない人を騙し、口座にお金を振り込ませるなどして現金を奪おうとする詐欺手口のこと。一般的に振り込め詐欺などが特殊詐欺に含まれます。

→ p. 22

は行

26 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権のこと。

→ p. 27

27 BCP (Business Continuity Plan)

災害や事故など不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめたもの。危機発生の際、重要業務への影響を最小限に抑え、仮に中断しても可及的速やかに復旧・再開できるようにあらかじめ、策定しておく行動計画のこと。

→ p. 31

28 評価益

株式などの有価証券が、買ったときの価格(簿価)から値上がりして、現在の価格(時価)の方が高くなっているときのその差額のこと。
反対に買ったときの価格(簿価)より現在の価格(時価)が低くなっているときの差額は評価損といいます。

→ p. 28

29 ポートフォリオ

多種類の銘柄や金融商品の組み合わせのこと。一般的に、資産運用において、ポートフォリオは運用資産(保有資産)の構成状況(組み合わせ)のことを意味し、その中身は預貯金、株式、債券、投資信託、REIT、外貨預金、外国株式、外国債券など実に様々なもので構成されています。ポートフォリオにおいては、全体の収益性(リターン)や換金性(流動性)を考えて、金融商品をいかにうまく組み合わせるリスクを管理しながら運用(分散投資)するかが重要であるといえます。

→ p. 28

ま行

30 マイナス金利政策

民間金融機関が中央銀行に預ける当座預金の金利をマイナスにすること。金融機関は、中央銀行に余分なお金を預けると金利を支払わなければならないため、融資などにより資金が市場に流通するようになり、景気を刺激する効果を狙うもの。中央銀行である日本銀行は、平成28年9月20日～21日の金融政策決定会合において、従来の「量的・質的金融緩和」、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を強化する形で、新たな金融緩和の枠組みである「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を導入しています。

→ p. 2、25

ら行

31 リスク・アセット

金融機関が抱えるリスク資産(有価証券や外国為替、貸出金など)にリスクの大きさに応じた掛け目を乗じたもの。

→ p. 26

32 流動性リスク

市場の混乱により必要資金が確保できない場合や、通常より著しく高い金利での資金調達を余儀なくされるリスクのこと。

→ p. 31